

土壌診断結果の見方

土壌診断結果

受付日:	圃場名 採草地	面積	リン吸	662 (低い)	発行日
氏名	チモシー採草地	土壌型 低地土	CEC	28 (高い)	担当者
住所	作物名	土性 壤土	腐植	2 % (富む)	分析者

基本分析	分析値	基準値	グラフ
pH(H ₂ O)	5.3	[5.5 - 6.5]	
EC(mS/cm)	0.05	[]	
石灰(mg/100g)	300	[200 - 450]	
苦土(mg/100g)	65	[10 - 20]	
カリ(mg/100g)	14	[15 - 20]	
リン酸(mg/100g)	102	[20 - 50]	

養分バランス	分析値	基準値	グラフ
石灰飽和度(%)	38	[]	
苦土飽和度(%)	11.6	[]	
カリ飽和度(%)	1.0	[]	
塩基飽和度(%)	51	[]	
石灰・苦土比	3.3	[5 - 10]	
苦土・カリ比	11.1	[2 <]	

特別分析	分析値	基準値	グラフ
銅 (ppm)	1.9	[0.5 - 8.0]	
亜鉛 (ppm)	2.7	[2 - 40]	
マンガン (ppm)	88	[50 - 500]	
ホウ素 (ppm)	0.7	[0.5 - 1.0]	
熱水抽出性窒素(mg/100g)	6.3	[]	

* 基準値は施肥前の値になっています。
* 微量元素の基準値は、畑作の基準値を載せています。

熱水抽出性窒素
 土壌に含まれる窒素量です。露地では熱水抽出性窒素を、施設では硝酸態窒素を測定します。

pH
 溶液中の水素イオン濃度[H⁺]を表します。濃度が高くなるほど、pHの値は低くなります。

EC
 電気がどのくらい流れるかを表した値です。塩類濃度の指標となります。ECは通常、硝酸態窒素が多いと、高くなる傾向にあります。

石灰、苦土、カリ
 土壌に含まれる石灰・苦土・カリの量です。交換性塩基ともよばれ、土壌中でpHを下げる原因である[H⁺]と交換されます。

リン酸
 土壌に含まれるリン酸のうち、作物が吸収利用可能な有効態リン酸の量です。

石灰、苦土、カリ、塩基飽和度
 CECに対して、どれだけ交換性塩基(石灰、苦土、カリ、その和)で満たされているかを割合(%)で表したものです。

石灰・苦土比、苦土・カリ比
 土壌中の交換性石灰と交換性苦土、交換性苦土と交換性カリのバランスです。

銅、亜鉛、マンガン、ホウ素
 土壌に含まれる各種微量元素の量です。

リン吸
 土壌がリン酸を固定して、不溶性リン酸にする力です。高いほど、リン酸を固定しやすい土になります。

CEC
 保肥力、つまり施肥した肥料を蓄える力です。値が高いほど、保肥力が高いといえます。

腐植
 広い意味で土の中の有機物の量を表します。値が高いほど、有機物が多く、物理性や保肥力を良くします。

施肥対応量
 土壌分析の値に基づき、施肥対応をした後の値です。「北海道施肥ガイド2015」に基づいています。

施肥標準量
 各作物の年間施肥量または基肥量です。「北海道施肥ガイド2015」に基づいています。

土壌改良資材欄
 分析結果から、値を適正にするために必要な土壌改良資材の量を計算したものです。

土壌改良資材	施肥設計(年間施肥量) (kg/10a)	
成分	施肥標準	施肥対応後
石灰資材 目標pH 6.0	16.0	11.0
炭カル ... 150 kg/10a(深さ5cm)	6.0	0.0
ピクトリー ... 83 kg/10a(深さ5cm)	18.0	19.8
	0.0	0.0

マメ科率5%未満の場合

施肥対応
 pH...低いので、石灰資材の施用をお勧めします。
 苦土、リン酸...作土中に充分含まれています。
 カリは不足...多めに施肥した方がよいでしょう。

◆◆留意事項◆◆
 年間2回利用を前提とする。その時の施肥配分は、早春:1番草刈取後=2:1とする。
 施肥時期は、早春ではチモシーの萌芽期ごろ、1番草刈取後ではチモシーの独立再生始期(刈取後5~10日後)が適当である。

コメント欄
 分析結果に基づいて、バランスの良い土にするための対応策です。

株式会社丹波屋 常務取締役 肥料部長 豊嶋博美

